

[調査会 NEWS 282] (17.9.14)

今月の定例記者会見

以下の日程で行います。報道関係者各位にはお忙しいところ恐縮ですがよろしくお願ひします。なお、内容等については後日お知らせします。

日時：9月30日(金) 14:00～

場所：家族会事務所(飯田橋駅東口歩2分)

おしらせ

荒木和博

現在発行されている毎日新聞社「エコノミスト」(9月20日号)に「拉致被害者はなぜ口を閉ざし続けるのか」と題した拙稿が掲載されています。多少のハレーションを覚悟して問題提起のつもりで書きましたので、ご関心のある方はご一読いただくと幸いです。なお、その中にも一部書きましたが、安明進氏の証言と蓮池薫さんのコメントの食い違いについては下記の戦略情報研究所主催懇談会でも話してもらおう予定です。締切りは16日ですが、予想外の解散と、当日が国会の召集日にあたるため国会関係者の参加がまだ流動的で今のところ席数には余裕があります。一人でも多くの方のご参加を期待しております。

(参考情報) 安明進氏懇談会

日時：平成17年9月21日(水) 時間：15:00～17:00

会場：グランドヒル市ヶ谷・白樺東の間

(新宿区市谷本村町4-1 03-3268-0111 JR・地下鉄市ヶ谷駅下車 防衛庁隣)

参加費：一般5000円

(コーヒー&ケーキ付き・戦略情報研究所会員は2000円分講演会参加券を使えます)

タイトル：「北朝鮮の対日、対南工作活動の実態」

限定人数：50名

通訳及び進行役で荒木がコーディネート致します。

参加お申込み・お問い合わせは戦略情報研究所(info@senryaku-jouhou.jp03-5684-5096)まで。

[調査会 NEWS 283] (17.9.15)

NHKの報道から感じたこと

荒木和博

今日のNHKニュース及び「クローズアップ現代」で、拉致被害者に関する新たな情報について報道されていました。ちょうど六者協議のときでもあり、世論喚起という意味でも効果はあったと思います。関係者の皆さんのご努力に敬意を表する次第です。

ただ、私自身はテレビを見ていて思ったのですが、何度も強調されていた「新事実が明らかになりました」というのは、何か裏がとれてのことだったのでしょうか。おそらく、根拠となったのは帰国した5人が横田さんや飯塚さんに話したことだけだと思います。検証するすべはないはずですが。

あの話の中にはキム・チョルジュなる人物も含め、これまで出てきた人だけしか登場しません。私にはそれが不自然に思えてなりません（あるいは報道の中で省かれているだけなのかも知れませんが）。

ところで、先日の調査会の定例記者会見での安明進氏の発言について、別の社の記者さんから次のような指摘をもらいました。

「具体的かつ新たな事実の提示による蓮池発言の論破というよりも、『蓮池氏が発言できないのはなぜなのか、こういう事情によるものではないか』といった疑問点提起が中心だったように聞こえました。おそらく会見に参加した各記者とも同様の感想を抱いたとみられ、安明進氏の再反論会見が各紙にほとんど載らなかったのは、選挙直前で紙面に余裕がなかったからだけでなく、その日の安氏の発言内容にこれまでと違う新たな事実提示の要素を見だしにくかったことも関係があったように思えます」

確かにこの指摘にも一理あるのですが、そうするとあのときの蓮池薫氏のコメントは「具体的かつ新たな事実の提示」だったのかどうか。また、今回のことも「事実の提示」とは断言できないように思います。あらためて、私たちは情報戦の渦中にいるのだと実感している次第です。本来、そういうことが専門のはずの私自身、かえって灯台下暗しになっていたのかも知れません。

[調査会 NEWS 284] (17.9.26)

六者協議に関して

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

六者協議の合意は遠からず破綻すると思います。私は合意すること自体に反対でしたが、佐々江局長ら代表団も周囲の圧力の中で苦勞したと思います。これで北朝鮮の中には相当の亀裂が入っているでしょうから、今後大変だとは思いますが、原則論を貫いてもらいたいものです。それだけでも北朝鮮の体制崩壊には大きな力になります。ある意味で、これほど日本外交の真価が試されている場もないでしょう。

ところで、日本側代表団の皆さんは帰国後家族会に状況の報告をしましたが、残念ながら特定失踪者には一切の連絡も、紙一枚の報告もありませんでした。ある意味では古川さんの訴訟の中で、国側が「認定してもしなくても、ちゃんとやっているのだから、訴えの意味がない」ということを政府が崩してくれたことにもなります。結局、政府の対応は認定した人としらない人を徹底して差別し、できるだけ仕事を減らそうとしていることでしょう。次の口頭弁論で国側がどうなのか、楽しみです。こちら側の証人として、外務省の担当者と呼ぶなどという方法もあるのかなと、皮肉ながら思ったりもしています。

やがて金正日体制の崩壊などで、曾我さんのように未認定の拉致被害者が何人も帰ってくるでしょう。そのとき政府はどう申し開きをするつもりなのか。無事に帰って来た人なら、まだ「今まで気付かないで申し訳ありませんでした」と言って警察庁長官や警備部長、担当県警本部長あたりが辞表を書けばそれでおしまいかも知れません。しかし、北朝鮮で亡くなった人がいたらどうするのか、そのときは、辞職などで済まされることではないのと言うまでもありません。

「あいさつがないぞ」などごねるつもりは毛頭ありません。何も言わなくてもすべての拉致被害者救出のために政府が全力を尽してくれるなら、そもそも特定失踪者問題調査会などという団体が存在する必要もないのです。どういう形でも構いませんから、拉致被害者すべてを救出するという、当たり前の原則を実行してもらいたいものです。

[調査会 NEWS 285] (17.9.29)

明日の記者会見について

明日 30 日は予定通り 14:00 より家族会事務所にて定例の記者会見を行います。報道関係各位にはお忙しいところ恐縮ですが、対応賜りますようお願い申し上げます。

今回の内容は 1000 番台リスト及びゼロ番台リストの追加、短波放送に関する進捗状況の報告その他の予定です。従来と同様、取材用に 30 日 10 時 30 分頃より調査会事務所にて写真の掲示及び資料の配付を行います（報道は記者会見開始後をお願いします）。

[調査会 NEWS 286] (17.9.30)

記者会見の内容

本で行われた定例記者会見で次の通り発表を行いました。

国井えり子さんを 1000 番台リストとして発表

(すでにゼロ番台リストとして発表していた国井えり子さんを 1000 番台に切り替えました。なお、国井さんについては本日北海道警に告発状を提出しました)

< 状況 >

当時 17 歳
失踪日 1968 年 12 月 12 日
当時の身分 高校生
当時の住所 北海道網走市
失踪場所 北海道網走市
失踪の状況

失踪した 12 月 12 日の朝、午前 7 時 30 分頃、「学校で試験があるのでいつもより早く学校へ行く」といってみかんを半分だけ食べて自宅を出たまま行方不明。失踪時の服装は高校の制服。普段かけていた眼鏡は部屋に置かれたままだった。日記も 2 冊あった(日記は警察に提出し、その後処分された)。衣服などは持ち出した形跡はなかった。本人のアルバム(写真)がなくなっていた。高校生だったのでお金もそんなにもっていない。

失踪後、数日してから無言電話が 3 ~ 4 回かかってきた。家のものが「もしもし」と出ると、一方的に切れるものだった。同様の無言電話が本人の親戚のところにもあった。

< これまでの経過 >

国井えり子さんについては、2005 年 6 月 3 日の記者会見において、0 番台リストとして公開するとともに、国井えり子さんと思われる北朝鮮からもたらされた写真を公開した。

発表当時、1000 番台リストとしなかった理由は、北朝鮮からの写真が一枚だけであり、それだけでは国井えりさんと断定できるだけの確証が持てなかったことにある。しかし、当該の写真は、加瀬テル子さんの夫(北朝鮮において拉致された日本人を管理する責任者)と言われる男性と同じ場所で写ったものであり、極めて重要な写真であるとの認識を持っていた。そこで、より慎重に扱っていくとの配慮から 1000 番台リストとすることを保留していた。

< 今回 1000 番台リストとする根拠 >

発表後 3 か月あまりを経過したものの、日本国内はおろか、国外からも写真に写った女性についての情報が一切もたらされていない。この一切情報が無いことが、逆に、当該の写真が国井えりさんである可能性が高いこと、すなわち国井えりさんではないと否定する材料が無いことを証明している。

また、当該の写真を簡易鑑定した橋本助教授によれば「この写真の女性を国井えり子さんとして矛盾するものはないが、今後の検討を要する」とのことであった。つまり、当該

の写真については、国井えり子さんではないと否定する材料が無い、ということである。

さらに、その後の調査により、国井えり子さんの失踪には不審な点が判明している。その不審な状況を警察当局によって明らかにしていく必要がある。

以上のことから、告発という法的手段に訴えることで失踪の解明が進むことを期待して、1000番台リストへ掲載した。

ゼロ番台リストの追加（第17次）

小西 能幸（こにし よしゆき）（当時20歳）

生年月日 ・昭和8（1933）年9月21日

失踪年月日 ・昭和29（1954）年4月22日

性別 ・男

当時の身分 ・家の旅館を手伝っていた。

当時の居住地 ・石川県輪島市河井町

失踪場所 ・石川県穴水町駅

失踪当時の状況 ・自宅を出るとき、げた履きで荷物も何一つ持たず、母と目を合わせた一言も話さなかったのが、家族は近所にでも出かけたものと思った。その日、七尾線輪島駅から午前7時半頃の金沢行きに乗り、3つ目の穴水町で下車したのを近所の人が見たとのこと。前日夜に自室で小銭を数えているような音を女中が聞いている。小遣いを貰っていなかったため、所持金は小銭程度と思われる。身障者の兄が働かなくても生活できるように、母は旅館を開業していた。そのため本人は、自分が邪魔であると感じており、チャンスがあれば家を出ようと思っていたようだ。

金 姫順（金村 英子）（きむ ひすん・かねむら えいこ）（当時19歳）

生年月日 ・昭和17（1942）年10月2日

失踪年月日 ・昭和37（1962）年1月

性別 ・女

当時の身分 ・専門学校生

当時の居住地 ・神戸市

失踪場所 ・新潟もしくは富山

失踪当時の状況 ・友人2人と家出した。その後友人二人は帰ってきた。新潟もしくは富山にいたようだ。そこで「良い仕事があるので一緒に行かないか」と誘われ、友人たちは断って帰ったが、英子さんはついていったという。仕事の内容は不明。過去に一度家出したことがある。山田英子と名乗っていたこともある。失踪から1～2年の間は無言電話があった「英子」と呼びかけても返答が無かった。

坂下 喜美夫（さかした きみお）（当時30歳）

生年月日 ・昭和8（1933）年2月9日

失踪年月日 ・昭和 38(1963)年
性別 ・男
当時の身分 ・乾物屋
当時の居住地 ・石川県七尾市作事町(さくじまち)
失踪場所 ・石川県七尾市作事町
失踪当時の状況 ・乾物屋の仕事で自転車で配達に出てそのまま失踪。財布、運転免許証も家に置いたまま。七尾市に来る前は金沢の自衛隊に勤務していた。

種橋 昭子 (たねはし あきこ)(当時 21 歳)

生年月日 ・昭和 18 (1943) 年 8 月 24 日
失踪年月日 ・昭和 40(1965)年 6 月 8 日
性別 ・女
当時の身分 ・会社員
当時の居住地 ・埼玉県朝霞市溝沼
失踪場所 ・自宅から
失踪当時の状況 ・1965 年 6 月 8 日、母親に「元の養子先に戻る」と言って家を出たまま行方不明。そこへは行っていないことがわかり、母親が朝霞警察署に家出任搜索願を提出した。

横山 辰夫 (よこやま たつお) (当時 29 歳)

生年月日 ・昭和 27 (1952) 年 9 月 16 日
失踪年月日 ・昭和 56(1981)年 11 月 18 日以降
性別 ・男
当時の身分 ・溶接技師
当時の居住地 ・横浜市
失踪場所 ・横浜市
失踪当時の状況 ・本人から長崎の実家に「横須賀の米軍基地内の仕事につくため、戸籍を送って欲しい」と電話があり(11 月 18 日)、家族が友人宅に戸籍を送ったが、それ以後連絡がとだえる。失踪前の 11 月 5 日には、父の一周忌のため長崎に帰省していた。

菊地 寛史 (きくち ひろし)(当時 20 歳)

生年月日 ・昭和 52 (1977) 年 11 月 22 日
失踪年月日 ・平成 10 (1998) 年 4 月 5 日
性別 ・男
当時の身分 ・自動車会社勤務
当時の居住地 ・長野県佐久市入沢
失踪場所 ・研修の宿泊施設(長野市サイクリングターミナル)
失踪当時の状況 ・新人研修中に寮から行方不明。4 月 5 日、宿泊部屋が一緒だった同

僚に「ジュースを買ってきてくれ」と頼み、同僚がジュースを買って部屋にもどるといなくなっていた。荷物、免許証、財布、スーツ、靴等も残したままだった。

平成 10 年～ 13 年くらいまでの間に時々数回だけ鳴って切れる電話があった。そのほとんどが非通知だった。こちらが出たとたんに切れる電話もあった。平成 15 年くらいからは、ほとんどそれも無くなった。